

しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渴くことがありません。

わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。

高松泉キリスト教会 ニュースレター

第 186 号 (2025 年 10 月号)

い ズ ミ

仮会堂：高松市浜ノ町 60-78
(日曜日のみ)
Tel : 070-2821-0999
発行人 宮地 宏一



先月、上棟式を執り行うことができました。土台が据えられ、柱・梁・

屋根が組み上げられ、新会堂の全容が見えたとき、思わず「こういう感じだったのか～」と口走っていたのです。設計図をいくら説明されても、私の頭の中では、どうしても立体とはならず、



平面のままだったからです。さらに会堂の中に入ると、礼拝堂の広さにもビックリ。これまでの 1.5 倍ぐらいあるでしょうか。完成まで約 3 か月。とっても楽しみです～

今月も神さまからの恵みが、お一人お一人の上に豊かに注がれますように。

(2025.10.01)



愛のまなざし

小さいころ、私は雨の日が嫌いでした。それは友だちと外で遊べず、家で一人で遊ばなければならなかったからです。そんなときは大抵「きょうだいがいたら良かったのに」と思つたものです。また仲の良いきょうだいを見ると、味方がいつも一緒にいるようで羨ましかったです。今、私は 5 人きょうだいの父となりました。子どもたちは雨の日でも、一人で退屈だということはなさそうです。寝る直前まで、ふざけ合って、楽しそう。

一方で、子どもたちは直ぐに喧嘩をします。特に男子三人は、お互いをライバル視して「勝った」「負けた」で、あっという間に喧嘩が勃発するのです。その度に私は、これが私の憧れていたきょうだいなのかと幻滅します。

また私は 5 人きょうだいの親として、どの子どもにも平等であることが子育てをしていく上で、とても大切だと思っていたのです。けれど、これがなかなか難しい。年齢も性別も興味もまちまちなので、同じようにできないことが多くあるのです。そんなとき、理想の親になれていないとガッカリして、落ち込みます。



「もっと、こうしてあげたらよかった」、「ちょっと、えこひいきしてしまった」、「上手く愛が伝わらなかった」と悩むこともしばしばです。そんな悩み多き私の目に飛び込んできたのが「きょうだいは 平等に愛してはいけない」という刺激的で挑発的なタイトルの記事でした。この記事はクリスチャンで、新潟青陵

大学教授の碓井真史氏が書いておられたのです。

そもそもきょうだいは、仲良くせねばならないものではありません。「仲が良い方がいい」ぐらいの関係です。人間の生き方において「ねばならない」という考え方は、不健康な心を作り出します。

一方で親の立場からすると、積極的に関わりやすい子どもと関わりにくい子どもが出てきてしまうのは避けられません。ただそれは、決して片方を愛していないわけではなく、愛が伝わりにくい状態だと思います。そういう子どもにも愛を伝えることが「親の腕の見せどころ」だと思います。





私は「きょうだいは平等に愛していけない」と考えています。子どもは平等に愛されることを求めているのではなく、常に自分を見て欲しいと思っているからです。子どもが「私とお兄ちゃん、どっちがかわいい？」と聞いてきたら、「どっちもかわいい」ではなく「あなたが一番」と言ってあげてください。

【朝日新聞 2025.9.6 「くらし」より】

読みながら、目からうろこが何枚も落ちました。きょうだいは「仲が良い方がいい」ぐらいの関係がふさわしい。「仲が良くなければならない」と思うから、喧嘩するとイライラするし、ほかの家庭と比べてしまうのです。仲が良ければ、それでよし。仲が悪くても、それでよし。一喜一憂するのではなく、これからも続く長い関係性の中で、お互いを認め合っていけるように見守正在の私が私たち親に委ねられていことなのでしょう。

また【子どもは平等に愛されることを求めているのではなく、常に自分で見て欲しいと思っている】「子どもたち」という一括りではなく、個人個人として見て欲しいのです。そして両親のまなざしをいつも感じ、他のきょうだいよりも特別な存在だと認められることで、自分を肯定的に受け入れることができます。

これは私たち大人も同じですね。自分で見て欲しいし、「みんな」ではなく「あなたを愛している」「あなたが一番」と認められたいのです。けれど人から認めてもらうのは簡単ではありません。人の愛や評価は、条件付きであることが多いので、相手次第で常に変わってしまうのです。



- 礼拝
- イズミン・キッズ
- おやこ de えほん

* どなたでも歓迎いたします！すべて事前申込みなしで参加いただけます。

上記の他に様々な相談や聖書の学びをすることができます。お気軽にお問い合わせください。

しかし聖書の神さまの私

たちへの愛と評価は、条件付きではありません。誰をもえこひいきすることなく、100%の純粋な愛で愛してくださるのです。しかも私たちがお母さんのお腹にいる時から、神さまは私たちを見られ、大きな愛で包んでくださっていました。



けれど私たちはこの愛に、なかなか気づけないので。そんな私たちのために神さまは、愛するひとり子イエスさまを今から2000年前に送ってくださいました。そしてイエスさまは愛する私たちを救うために、十字架で死なれたのです。このイエスさまを通してなされた神さまの愛を私たちが受け入れるなら、私たちは神さまの愛のまなざしに気づき、「あなたはわたしの愛する子」という声を聞くことになるでしょう。

私も以前、誰かに見てもらおう、一番だと認めてもらおうと必死でした。けれど神さまのまなざし、イエスさまを通して明らかにされた愛を知った時、「あ～神さまは、こんな私をずっと愛し、見てくださっていたんだ」と木ッとして、嬉しくなりました。



ですが今でも、人の評価が気になることがあるのです。そんなとき私は「イエスさまは私を愛してくださっている。常に神さまの愛のまなざしが私に注がれている」と心の中で叫ぶようにしています。そうすると心に平安が与えられるのです。今日も神さまの愛のまなざしは、お一人一人に注がれています！

あなた【神さま】の目は胎児の私を見られ

あなたの書物にすべてが記されました。【聖書】

毎週日曜日 10:30~12:00

毎週日曜日 9:30~10:20

毎週水曜日 10:30~12:00

